

# 日田市立博物館年報

第 50 号

(平成 28 年度版)



2017年

日田市立博物館

## はじめに

日田市立博物館は、旧博物館老朽化のために、昨年8月5日に中央公民館を改修して誕生した複合文化施設(AOZE)の3階に移転し、リニューアルオープンをいたしましたところでございます。

今年の8月で1周年を迎えようとしていますが、この間に1万5千人を超える方々がご来館くださいました。アンケートをとった結果、大多数の方々が大変よいと答えてくださっていますように、市民の皆さまからも大変高い評価をいただき光栄に存じます。

また、博物館では実物標本や淡水魚の生態展示などを行っておりますので、学校の授業では教えることが難しい部分を子どもたちに伝えることができると学校の先生方にも好評をいただいています。

このように博物館が生きた自然を学ぶ施設として生まれ変わることができましたのも、多くの方々が貴重な資料を博物館のために惜しげもなく寄贈してくださったり、展示に関係する写真撮影や映像制作に当たっても全面的に協力してくださった賜物であり、関係者の皆様方に対しまして心より厚く御礼を申し上げます。

こうして誕生した博物館がこれから先、多くの市民に愛され活用されていくためには、職員の不断の努力と市民や学校関係者の皆さま方のお力添えが必要です。そのために、特別展や企画展、各種教室やイベントの開催などを充実させ、多くの方々に満足いただける博物館としてさらに進化させていきたいと存じます。

平成29年7月

日田市立博物館長 池田寿生

# 《 目 次 》

はじめに

I	博物館の沿革	1
II	博物館の概要	2
	1. 博物館基本計画	
	(1) 博物館の基本理念	
	(2) 整備方針	
	(3) 活動方針	
	(4) 展示計画	
	(5) 収蔵計画	
	(6) 博物館活動計画	
	(7) 管理運営計画	
	2. 新博物館の概要	
III	入館者の状況	10
IV	組織・運営体制	16
	1. 博物館職員	
	2. 博物館協議会	
	3. 博物館協議会の開催	
V	平成 28 年度事業概要	
	1. 博物館日誌	18
	2. 展示事業	21
	(1) 特別展 廣瀬久兵衛と小ヶ瀬井路	
	(2) 企画展	
	1 回目 日田の季節を彩る花々	
	2 回目 水郷日田の源流を巡る	
	(3) 特別企画展 おきあげ人形特別展	
	(4) 臨時企画展 さよなら博物館展	
	(5) 第 55 回小・中学生自然研究作品展	
	3. 普及啓発活動	28
	(1) 夏休み小・中学生対象自然教室	
	(2) 一般市民対象自然教室	
	(3) 職場体験受け入れ	
	(3) 博物館見学(団体)	
	4. 調査研究活動	31
	5. 新博物館への移転と旧博物館の解体	35

## I 博物館の沿革

昭和 27 年、市民団体により日田市に博物館を建てようとする運動がはじまり、翌昭和 28 年、大分県林業試験場内に八女市(広川)の原田植物園から譲渡を受けた剥製・標本類を中心とした日田博物館が誕生しました。

その後、市民から市立博物館の建設を望む声が高まる中、博物館の展示物については大分県林業試験場(日田博物館)に保管されていた剥製・標本類の多くを大分県より譲渡され、市民より昆虫・植物・鉱物・考古・民俗資料などの寄贈を受け、資金面では井上家教育振興会からの寄付を頂き、市制 20 周年・淡窓没後 100 周年記念事業の一環として、昭和 35 年 12 月、日田市三本松 1 丁目に日田市立博物館が開館しました。

この博物館の基礎はブロック積みで、上部は日隈小学校の新築に伴い旧校舎の不要となった資材を搬入して組み立てた軽量鉄骨 2 階建ての建物でした。1 階には考古・民俗資料を、2 階には植物や昆虫・鉱物標本などの自然資料を展示した展示室に倉庫・事務室・トイレが一つずつ設けられていました(昭和 39 年、事務室が狭いことから博物館東側に新たに事務室を増設)。この時の博物館敷地面積は 345 m<sup>2</sup>、博物館建物面積は 269 m<sup>2</sup>でした。

この博物館の開館に向けて、梅木(溝口)薫平氏が研究員として配置され、梅木氏の手により開館に向けての昆虫標本の整理などが行われました。また、現在の博物館で行われている植物・昆虫教室や同定会、作品展も開館した翌年から梅木氏の手により始められました。

また、昭和 39 年 3 月には、別府大学附属博物館について県内 2 番目となる博物館法に基づく博物館相当施設の指定を受けました。

しかし、この博物館には収蔵庫がなく展示室も手狭であり、駐車スペースもほとんどないことから、昭和 59 年頃より移転の計画がもちあがりましたが、実現には至りませんでした。その後、平成 19 年度に市民文化会館(パトリア日田)が誕生し、博物館もようやく移転の準備段階に入り、平成 22 年度に基本構想を策定、平成 26 年度に基本計画を策定し、平成 28 年度に文化センターを改修した複合文化施設(アオーゼ)3 階に新博物館として開館いたしました。



開館当時の博物館(正面)



開館当時の博物館(ワニの剥製)



標本整理を行う梅木氏



第 1 回作品展(昭和 36 年)



第 1 回植物昆虫採集会(昭和 36 年)

## Ⅱ 博物館の概要

### 1. 博物館基本計画

これまでの長い博物館活動を踏まえ、博物館基本構想に基づき平成 27年3月に基本計画を策定しました。

#### (1) 博物館の基本理念

近年、野生生物の生息環境、生態系全体のつながりを含めて自然環境の保全を図ることを目的とした「生物多様性基本法」が制定されるなど、自然環境問題が注目を集めるようになり、市民の自然環境に対する関心は一層の高まりを見せています。

一方、博物館を支えてきた市民団体の高齢化や博物館の老朽化も著しく、博物館が市民の学習意欲に応えられるよう今後充実した活動を進めていくためには、以下のとおり体制づくりも含めた見直しを行う時期を迎えています。

新たな博物館では、市民が日田の自然と人々の暮らしとの関わりに気付き、関心を抱かせる展示や自然環境学習などの事業活動を行うことが求められているとともに、市民が自然環境への理解を一層深め、次の世代に自然環境保全の大切さを伝えられるよう取り組みを進めていくことが必要です。

また、子どもたちの自然への関心が遠のいている中で、学校の授業だけではなく、博物館で「自ら進んで学び・体験をすること」を通して自然や科学に興味を持つ子どもたちの育成を図っていくことは、社会教育施設として博物館が果たすべき重要な役割の一つです。

さらに、自然環境についての市民の「学び」の多様化が進む中で、博物館には専門的な知識を持った人材が備わり、市民に協力できる体制が期待されています。

このほか、自然環境や生物多様性の保全を普及啓発するためには、自然環境を調査し、資料の整理・研究を行い、その成果を情報発信する必要があります。また、調査で得られた資料や市民から寄贈を受けた貴重な資料が劣化しないよう大切に保管するための施設も必要です。

こうしたことを実現するために、平成 23 年 3 月に策定した「日田市立博物館基本構想」に基づき、日田市ならではの特色ある博物館を整備し、地域資源でもある自然を守り育て、自然と共生する中で市の将来都市像でもある「人と自然が共生し、やすらぎ・活気・笑顔に満ちた交流都市」の実現に寄与することを目指します。

#### 【新たな博物館として目指すもの】

##### 1. 見やすくわかりやすい展示

- ・展示機能の充実

##### 2. 自然環境学習の推進や自然環境保全に向けた普及啓発活動

- ・市民が自然環境学習に関心を持ち積極的に参加するような事業活動を推進する。
- ・生物多様性や自然環境保全に向けた普及啓発

##### 3. 自然や科学に関心を持つ子どもたちの育成

- ・学校と博物館が連携を図り、カリキュラムの都合上できないような自然や科学分野の体験学習を博物館で行うことによる、自然や科学に関心を持つ子どもたちの育成

##### 4. 市民の「学び」に協力できる体制づくり

- ・専門知識を持つ学芸員の確保とともに、博物館活動に積極的に参加する市民ボランティアの育成

##### 5. 自然調査研究活動とそれにもとづく情報発信

- ・市民の自然環境保全への理解につながる自然環境調査と資料の研究活動、及びその成果を市民に公開するための情報発信

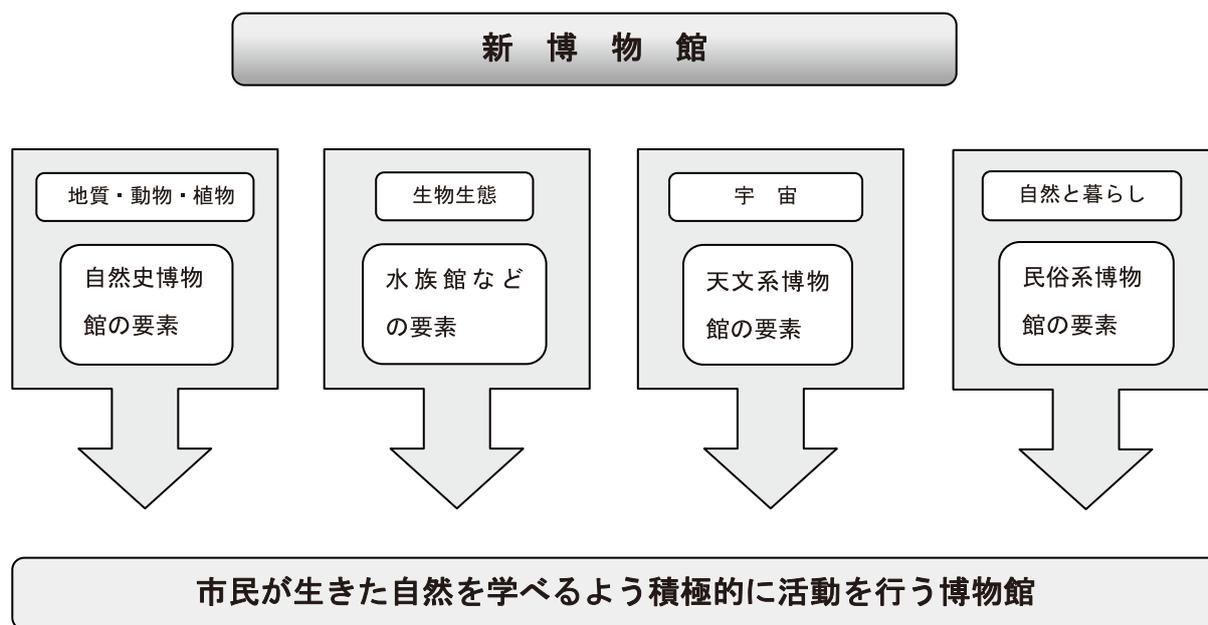
##### 6. 適正な資料の保存管理

- ・収蔵庫の設置

## (2) 整備方針

新たな博物館では、地質・動物・植物など自然界を構成する要素を中心に、水族館などが扱う生態展示も取り入れるほか、自然と人々の暮らしにまつわる民俗展示や天体・宇宙に関する展示も行います。

このように新たな博物館は、様々な分野の展示を行うことにより、市民が生きた自然を学び、日田の自然や文化などを積極的に情報発信する博物館を目指します。



## (3) 活動方針

### 1) 自然の再発見（見やすくわかりやすい展示）

日田の地形や自然のなりたち、四季の移り変わり、生物の営みなどの展示を通して自然の豊かさを再発見し、また実際に展示物に触れることにより、自然を体感できる機能を持った施設の充実を目指します。

### 2) 自然と人への思いやり（自然環境学習の推進や自然環境保全に向けた普及啓発活動）

自然の雄大さや命の大切さに気づき、自然を通して人と人が「互いに学び合う」楽しさを市民が共有できる自然環境学習を展開していきます。また、自然や生物の保護・生息環境の保全などに市民が積極的に関わりを持つ普及啓発活動を行います。

### 3) ワクワク・ドキドキ（自然や科学に関心を持つ子どもたちの育成）

多彩な体験教室を開催し、子どもたちに自然や科学に対する発見や感動を与え、本来持っている好奇心や探究心を導き出すことによって、自発的でいきいきとした子どもたちの育成に取り組みます。

### 4) 市民参加の館（市民の「学び」に協力できる体制づくり）

市民の学習意欲を増進させ、博物館の持つ機能や活動を高めていくために、専門的知識を持った学芸員を中心とした博物館運営を目指します。また、市民自らが積極的に博物館活動に参加し、自らの知識を広げるとともに、学芸員を補佐しながら自然環境学習などの支援を行う市民ボランティアの育

成を図ります。

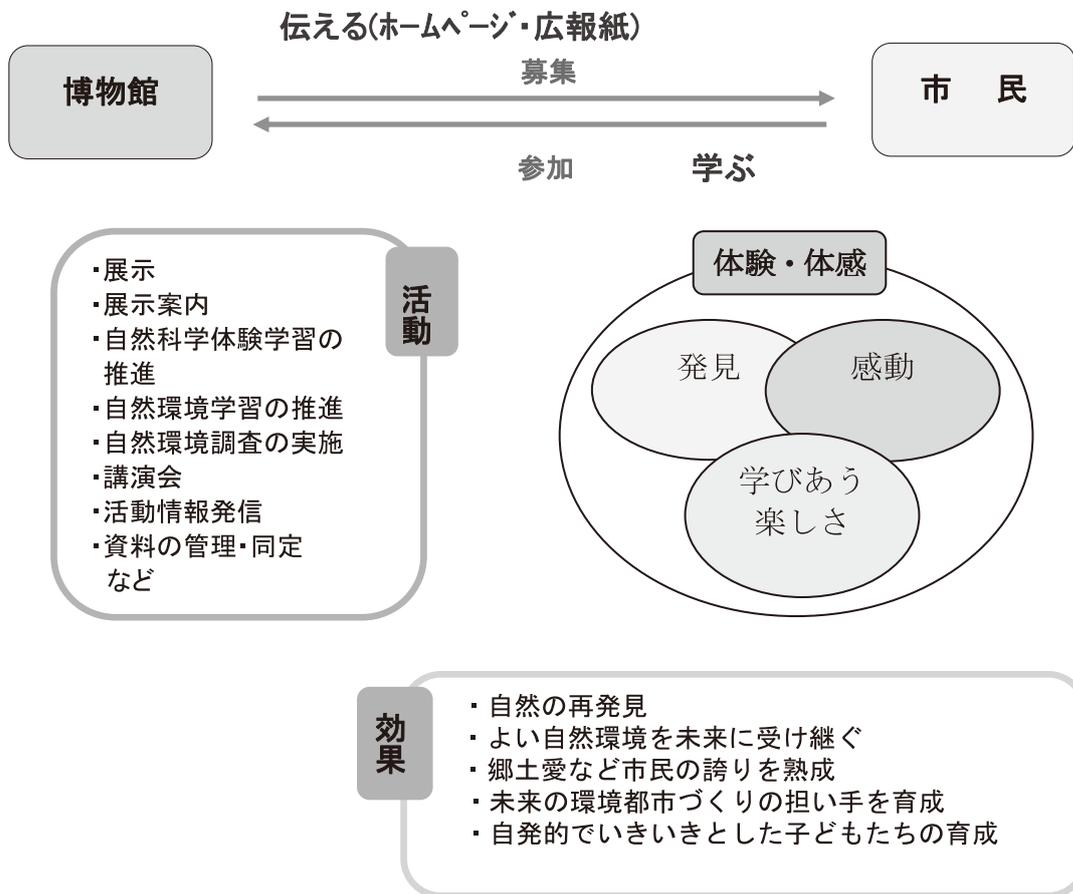
### 5) 自然界の様子を探る（自然調査研究活動と情報発信）

市域における自然環境調査を行い、得られた資料の調査研究を進め、資料を整理することにより明らかとなった成果を市民が享受できるよう、積極的に情報発信を行ないます。

### 6) 自然のタイムカプセル（適正な資料の保存管理）

市の自然環境の変化を知る上での基礎資料となる植物・昆虫・化石・鉱物などの標本のほか、調査によって収集される資料を後世に残していくために、収蔵庫を設置し温湿度調整など適正な保存管理に努めます。

## 博物館活動のイメージ図



## (4) 展示計画

### 博物館のコンセプト

ふるさと日田の豊かな自然を再発見し、自然と人々との関わりを学ぶ場所

### 1) 展示計画の概要

#### 【基本構想に基づく新たな博物館像】

新たな博物館においては、博物館基本構想に基づき、日田に見られる地質・動物・植物などの自然界を構成する要素を中心に、水族館などが扱う生態展示や天体・宇宙に関する展示、合わせて自然と人々との関わりなどの展示も行います。日田市民が自然の再発見や郷土愛を育み長い歴史の中で守り継がれてきた自然環境を後世に残し、未来に伝える役割を担う博物館とします。

#### 【新たな博物館が目指す展示内容】

日田の地形や自然のなりたち、四季の移り変わり、生物の営みなどの展示を通して、日田の水・自然の豊かさと人々の暮らしとのつながりを再発見し、また実際に展示物に触れることにより、自然を体感できる機能を持った施設の充実（見やすく分かりやすい展示）を図ります。

#### 【展示ゾーニング】

##### (1) 日田の地形のなりたちゾーン

海や湖、大地の記憶、人々が暮らす土地のはるかな歴史が見えるゾーン

##### (2) 日田の自然と暮らしゾーン

自然と私たちの暮らしのつながりについて考えるゾーン

##### (3) 日田の星空ゾーン

地球から宇宙へ視野を広げ、自然や生命の神秘を感じるゾーン

##### (4) 水辺の生き物ゾーン

ふるさとの川など自然界に生息する生き物を学び、日田の自然について考えるゾーン

### ○情報コーナー

#### 【内容】

- ・市民団体による川の生き物や水環境の保全の取り組みの紹介
- ・埋蔵文化財センターの紹介
- ・図鑑などの図書や教材を閲覧できるコーナー

### ○企画展示室

- ・調査等で明らかとなった地域の自然環境などの情報を展示
- ・貴重な資料を他の博物館などから借用し、自然環境保全をはじめとする普及啓発活動を行っていくための展示（1階の展示ギャラリーを活用しての特別展も開催予定）
- ・博物館活動に参加する市民などが目的に応じて博物館を利用して行う展示

## (5) 収蔵計画

### 【テーマ】

未来に伝える日田の自然遺産

### 【内容】

- 温度・湿度を一定に保つ機能が備わった収蔵庫
- 資料の特性に応じた保管棚の設置
- 資料のデータベース化

#### 《1階収蔵庫》

- 埋没樹木

小野川で出土した埋没樹木

収蔵面積 24.30 m<sup>2</sup>

- ・劣化を防ぐための薬剤塗布の必要があることから、なるべく間合いを広くとる。
- ・温度は20～25度を保つ。

#### 《2階収蔵庫》

- 化石・岩石・鉱物、貝類標本

市内を中心に産出している化石・岩石・鉱物標本（約1,400点）、貝類標本（約1,000点）

収蔵面積 約18.91 m<sup>2</sup>

- ・コンテナに登録番号順に入れて保管する。
- ・収納棚はコンテナの積み重ねが可能（安定を考慮して3個程度）なもの

#### 《3階収蔵庫》

- 植物・昆虫・動物標本

市内で採集された植物標本（約8,000点）、昆虫標本（約12,000点）、動物剥製他（約20点）

収蔵面積 約154.88 m<sup>2</sup>

- ・室温は20～25度、湿度は50%に保つ。
- ・植物標本は衣装箱に入れたものを収納棚に保管する。
- ・昆虫標本収納棚は標本がなるべく動かないよう横向きに入る保管棚が望ましい。
- ・剥製類は大きいので、高い棚の収蔵棚が望ましい。

## (6) 博物館活動計画

3. 活動方針の(2)～(4)に掲げている内容を実現するため、植物・昆虫教室や科学実験教室などの自然環境学習を推進していきます。また、自然環境保全活動や博物館活動を支える後継者（市民ボランティア）の育成を図ります。このため、以下の施設を設けます。

### 【体験学習室】

- ・植物・昆虫教室や科学実験教室などの体験学習を通して、自然や科学の大切さや楽しさを学ぶ場として活用する。

### 【ボランティアルーム】

- ・市民ボランティアが博物館活動に参加し事業を遂行するための作業場や会議室として、また、自然環境調査等を通して得られた資料の整理を行うための場として活用する。

## 7. 管理運営計画

### 1) 管理運営方針

自然そのものが生命を育む母体であり、人は限りなくその恩恵を受けてきました。また、日田の豊かな自然が今日まで残ってきたことは、人と長い歴史の中で有機的な関係を持ちながら、特色ある生態系を築いてきたからにはほかなりません。昭和 35 年に開館して以降、今日まで博物館に残されている標本などの資料の大部分は、市民が意思を持って採集し寄贈いただいた、日田の自然と人の営みの証となる大切なものです。

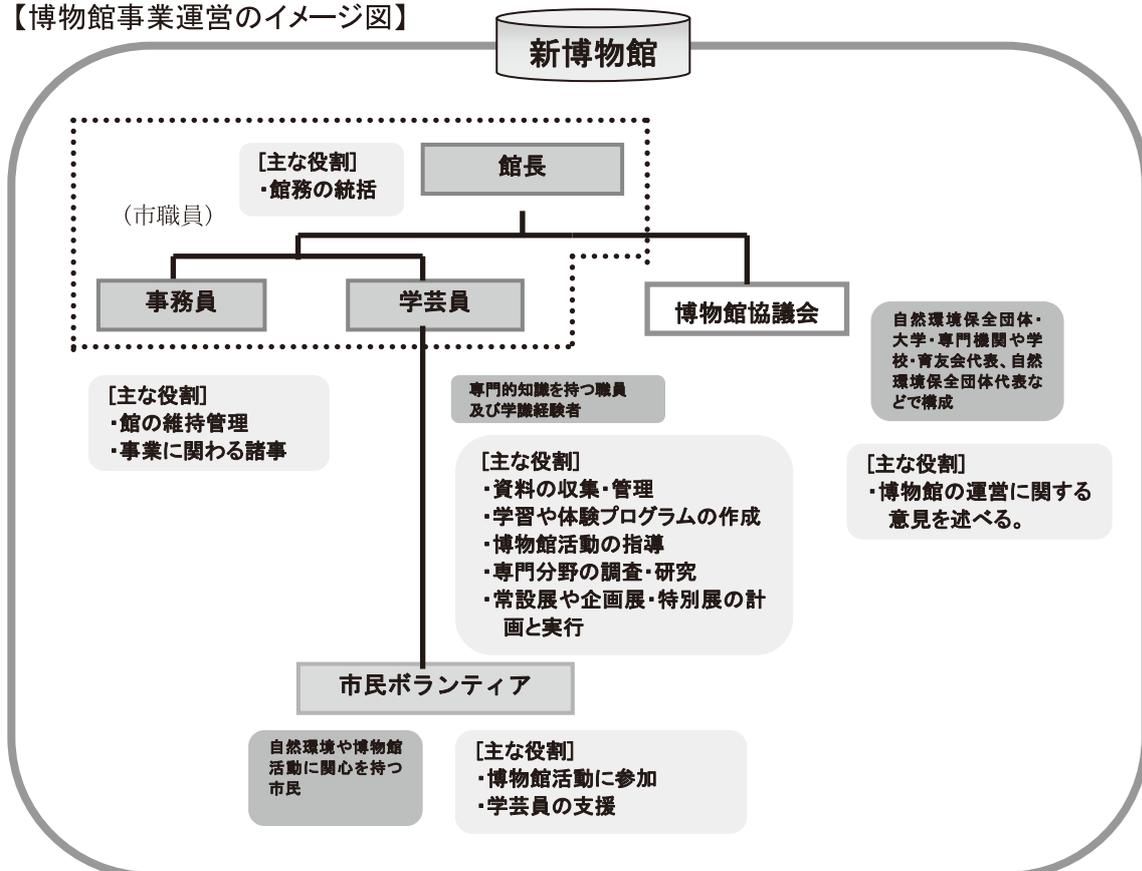
これらを保存・保管し後世に伝えるとともに、その資料を有効的に活用することにより、市民が郷土の自然や文化に誇りを持ち、未来を創造していくことが重要であり、博物館はその役割を果たす必要があります。このことから、博物館は市が直営で管理運営を行います。

### 2) 管理運営体制

博物館資料の保存管理や博物館活動を推進するため、学芸員を中心とした管理運営を行います。ただし、行財政改革の観点から、指定管理委託を行うことも検討していきます。

博物館活動を活発に進めていくために、自然環境保全団体のほか、大学・専門機関や学校・育友会代表などの有識者による、専門的立場や来館者の観点を踏まえて意見を述べる博物館協議会を設置します。

【博物館事業運営のイメージ図】



※博物館基本計画より抜粋(一部修正)

## 2. 新博物館の概要

新博物館は、博物館基本計画に基づき、常設展示室の設計及びデザインを(有)乃村工藝社に委託、また、天体や昔の写真をはじめ、漁具や剥製、化石、岩石標本、淡水魚などを多くの市民より寄贈いただきました。さらに、おきあげ人形研究会の方々がボランティアで「川と人との関わりコーナー」のメインシーンをおきあげ人形で作っていただきました。

新博物館では、以下の通り常設展示室、企画展示室、収蔵庫などを設けました。

(博物館の面積) 1,176.94 m<sup>2</sup>

- ・常設展示室 495.23 m<sup>2</sup>
- ・企画展示室 49.92 m<sup>2</sup>
- ・収蔵庫 198.09 m<sup>2</sup> (1階/24.30 m<sup>2</sup> 2階/18.91 m<sup>2</sup> 3階/154.88 m<sup>2</sup>)
- ・事務室 91.71 m<sup>2</sup>
- ・ボランティアルーム 48.54 m<sup>2</sup>
- ・エントランス・通路 150.72 m<sup>2</sup>
- ・トイレ 33.72 m<sup>2</sup>
- ・給湯室 6.88 m<sup>2</sup>
- ・倉庫 102.13 m<sup>2</sup>(機材倉庫 75.37 m<sup>2</sup> 書庫 26.76 m<sup>2</sup>)

※複合文化施設全体の面積 2,036.92 m<sup>2</sup>

- ・敷地面積 5,708.7 m<sup>2</sup>(駐車場普通車 52 台収容)



博物館エントランス



日田のなりたちゾーン



小野川埋没樹木と地層の剥ぎ取り展示



自然と暮らしゾーン(手前は地形ジオラマ)



日田の自然コーナー



川と人との関わりコーナー



日田の星空ゾーン



水辺の生き物ゾーン



ライブラリー・体験コーナー



企画展示室



収蔵庫(植物標本)



収蔵庫(昆虫標本)

### Ⅲ 入館者の状況

博物館は複合文化施設(アオーゼ)の開館に合わせて、平成 29 年 8 月 5 日にオープンいたしました。開館に際しては、日田天文同好会より宇宙あさがおの種をいただき、セレモニーの後に来賓の及び一般来館者の方々にプレゼントをいたしました。



平成 28 年 8 月 5 日から平成 29 年 3 月 31 日までの年間入館者数は以下のとおりです。

#### 平成 28 年度入館者数(人)

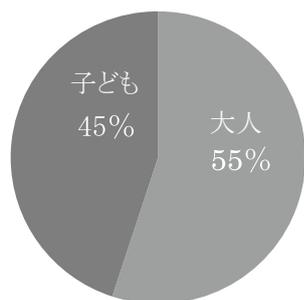
	大人	子ども	合計	市内	市外
8 月	1,511	921	2,432	2,054	378
9 月	1,418	1,343	2,761	2,601	160
10 月	1,347	1,477	2,824	2,688	136
11 月	850	763	1,613	1,374	239
12 月	533	399	932	784	148
1 月	571	320	891	832	59
2 月	557	339	896	854	42
3 月	638	503	1,141	977	164
合計	7,425	6,065	13,490	12,164	1,326

※子ども(高校生以下)

(開館日数 203 日/休館日 35 日)

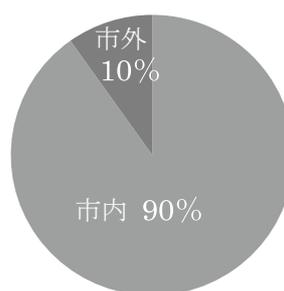
#### 入館者数の比較

##### 大人と子どもの割合



■ 大人 7,425人 (55%)  
■ 子ども 6,065人 (45%)

##### 市内と市外の割合



■ 市内12,164人 (90%)  
■ 市外1,326人 (10%)

入館者の割合を比較すると、大人が子どもよりやや多いものの博物館が子どもたちによく利用されていることがわかります。また、市内入館者と市外からの入館者数を比較しますと、9割が市内であり、市外からの入館者は全体の1割程度と少なく、市外の方の認知度が足りていないことがうかがえます。

また、全体の入館者数は13,490人と昨年までの入館者数をはるかに上回るものの、平成28年度の日田市の人口がおよそ6万7千人であることを考えた場合、人口比の約20%に過ぎず、市民への周知も不足していると言わざるを得ません。いかに、博物館に来館してもらえるかが今後の課題です。

さらに、過去の博物館入館者数と比較してみると、1～2年は多いものの数年たつと入館者数は減少していくことがわかります。今後は、いかに一定の入館者を確保していくかが課題となります。

### 過去の博物館入館者数の推移

単位：人・日

年度	入館者数	開館日数	年度	入館者数	開館日数	年度	入館者数	開館日数
昭 35	14,129	95	54	6,257	298	10	2,111	307
36	23,822	299	55	5,112	301	11	3,302	296
37	13,486	302	56	5,199	298	12	2,040	293
38	10,138	305	57	4,847	279	13	2,588	297
39	14,222	305	58	4,138	296	14	2,263	298
40	14,819	294	59	2,100	297	15	2,553	299
41	10,335	300	60	2,823	301	16	1,968	298
42	17,670	298	61	2,451	296	17	2,004	299
43	13,587	295	62	2,506	301	18	2,005	299
44	12,564	296	63	2,581	298	19	1,855	301
45	12,900	294	平元	1,172	299	20	1,864	302
46	11,257	303	2	1,529	295	21	2,395	307
47	10,336	301	3	2,471	296	22	2,355	307
48	8,834	299	4	1,938	296	23	2,633	303
49	8,797	302	5	1,723	302	24	2,302	306
50	7,332	295	6	3,596	298	25	2,491	306
51	6,937	279	7	2,182	298	26	2,904	304
52	5,966	300	8	2,301	301	27	2,935	303
53	6,328	299	9	1,788	291			

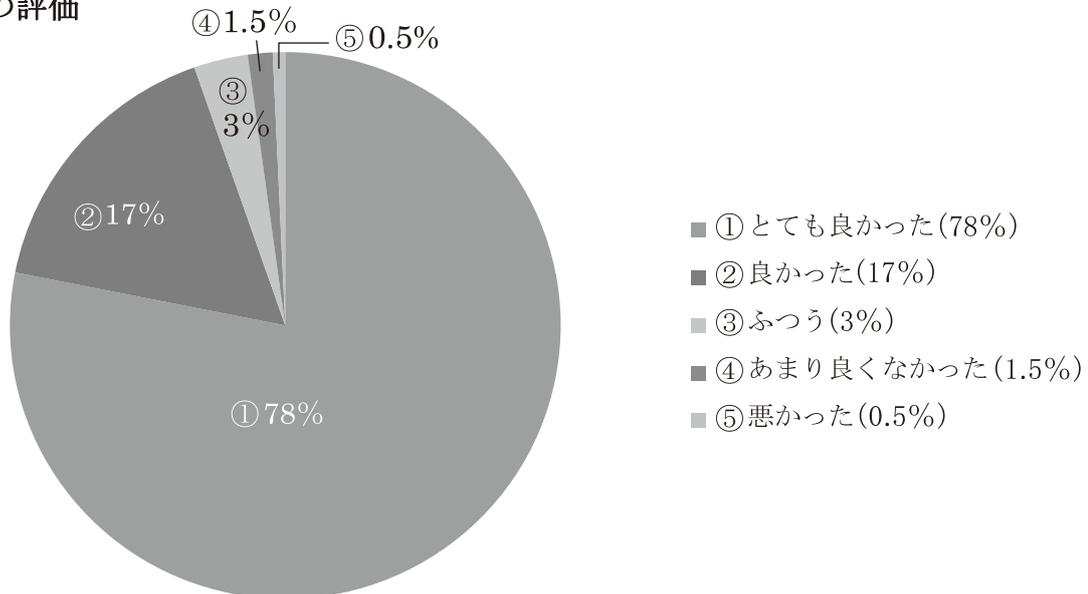
## 博物館の評価

博物館では、平成 28 年 8 月～平成 29 年 3 月まで入館者の意見を聞くためのアンケート調査を行い、博物館に対する評価を 5 段階(①とても良かった②良かった③ふつう④あまり良くなかった⑤悪かった)に分けて、記入していただきました。

## 入館者の博物館に対する感想

	1	2	3	4	5	合計	アンケート記入者の年代別数
8 月	64	17	2	0	0	83	中学生以下 37、高校～30 代 18、40～50 代 14 60 以上 10 未記入 4
9 月	83	19	7	5	3	117	中学生以下 58、高校～30 代 26、40～50 代 14 60 以上 15 未記入 4
10 月	100	19	2	0	0	121	中学生以下 79、高校～30 代 17、40～50 代 8 60 以上 12 未記入 5
11 月	19	1	0	0	0	20	中学生以下 13、高校～30 代 0、40～50 代 1 60 以上 5 未記入 1
12 月	23	2	0	1	0	26	中学生以下 15、高校～30 代 2、40～50 代 5 60 以上 3 未記入 1
1 月	11	6	0	0	0	17	中学生以下 12、高校～30 代 1、40～50 代 1 60 以上 2 未記入 1
2 月	8	1	1	0	0	10	中学生以下 3、高校～30 代 3、40～50 代 1 60 以上 2 未記入 1
3 月	13	3	1	0	0	17	中学生以下 11、高校～30 代 2、40～50 代 1 60 以上 3
	321	68	13	6	3	411	

## 来館者の評価



411 人の方がアンケートに答えていただきました。集計すると、表のとおりとなり、95%の方がとても良かった、あるいは良かったと答えてくださいました。

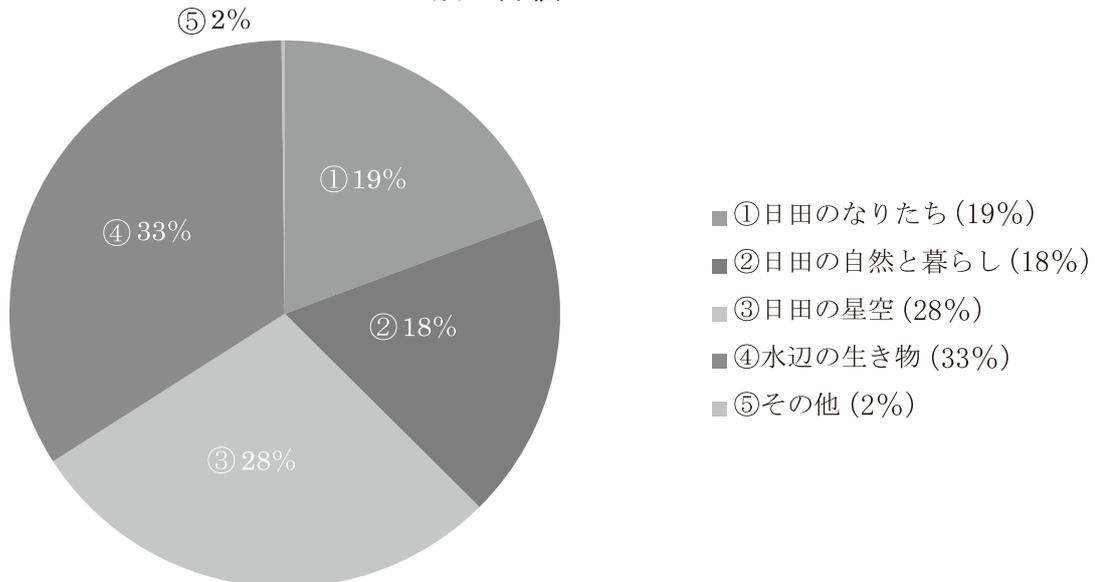
また、博物館ではいくつかのゾーンに分けて展示を行っていますが、どのゾーンがよかったのかのアンケート調査も合わせて行いました。アンケートでは、①日田のなりたちゾーン、②日田の自然と暮らしゾーン、③日田の星空ゾーン、④水辺の生き物ゾーン ⑤その他、としました。

来館者のゾーン別評価(二つ以上のゾーンによかったと記した回答あり)

	①	②	③	④	⑤	合計	アンケート記入者の年代別数
8月	22	22	40	48	1	133	中学生以下 37、高校～30代 18、40～50代 14 60以上 10 未記入 4
9月	41	37	55	60	4	197	中学生以下 58、高校～30代 26、40～50代 14 60以上 15 未記入 4
10月	34	31	59	59	2	185	中学生以下 79、高校～30代 17、40～50代 8 60以上 12 未記入 4
11月	5	7	5	8	1	26	中学生以下 13、高校～30代 0、40～50代 1 60以上 5 未記入 4
12月	5	5	10	19	3	42	中学生以下 15、高校～30代 2、40～50代 5 60以上 3 未記入 4
1月	3	7	2	9	0	21	中学生以下 12、高校～30代 1、40～50代 1 60以上 2 未記入 4
2月	4	3	3	7	2	19	中学生以下 3、高校～30代 3、40～50代 1 60以上 2 未記入 4
3月	9	4	7	6	1	27	中学生以下 14、高校～30代 2、40～50代 1 60以上 3 未記入 4
	123	116	181	216	14	650	

※⑤その他の回答は水害史、日田の歴史パズル、46億年スゴロク、埋没樹木木琴、下駄クイズ

ゾーン別の評価



アンケート調査の結果、④水辺の生き物ゾーンがよかったと答えた方が最も多く、淡水魚やカメなど生き物に人気があることがうかがえます。次に宇宙をテーマとした③日田の星空ゾーンの人気があることがわかりました。

また、日田のなりたちや自然と暮らしゾーンについても5人に1人の割合でよかったと回答しています。日田の自然と暮らしゾーンでは、①日田の創生や地形、地質、植生などを表したジオラマ②壁面に日田の自然や文化、暮らしなどを紹介した映像③日田の人々の暮らしの変化を絵で表現した川と人との関わり大絵巻④その他(剥製や昆虫標本、下駄、筏流しの道具、漁具、鵜飼ジオラマ)として、その中のどのコーナーがとくによかったのかをアンケート調査したところ、①ジオラマ 48人 ②日田の紹介映像 38人 ③川と人との関わり大絵巻 41人 ④その他 5人という回答が得られました。この結果から、来館者の興味などによって見る視点も違っていることがうかがえました。

また、アンケートでは、展示を見て博物館への感想や要望等の意見を自由に書き込んでもらいました。以下、おもなものを紹介します。

#### 【感想】

- ・小学生とか勉強になるし、こんなすごい施設が無料だったら何回も連れてきたいとおもった。(女性・高校～30代・市内)
- ・心が落ち着きます。いつも忙しい日々を忘れてまた来たいと思います。(女性・60代以上・市内)
- ・全て勉強になりました。多くの子どもたちに見てもらいたいです。(女性・60代以上・市内)
- ・すばらしい施設ができ、日田市民としていろいろな発見ができました。(女性・60歳以上・市内)
- ・とても見ごたえがあり、子どもも楽しそうだった。(女性・高校～30代・市内)
- ・無料とは思えない素晴らしい展示でした。(女性・40～50代)
- ・市内には子ども連れで楽しめる施設があまりないので、このような施設ができてうれしく思います。(女性・高校生～30代・市内)
- ・子どもが楽しめるコーナーがあり、夏休みに利用するのに都合がよかった。(女性・高校～30代・市内)
- ・日田へ来て10年、初めて博物館に来ました。あまり期待していなかったのに子どもがはまってなかなか帰れませんでした。(女性・40～50代・市内)
- ・お魚を見るのが目的でしたが、こんなに展示物があって充実ぶりに嬉しくなりました。日田の友人知人に教えます。(女性・40～50代・市内)
- ・思わず身近なところで歴史にふれあえる場所があり、子どもたちの反応もよく、話す内容もいつもと違って良かったです。(女性・高校～30代・市内)
- ・何度も足を運びたいと思いました。絵・デザインの参考にしたいと思います。(女性・高校～30代・市外)
- ・昔、川で遊んでいたのを思い出しました。子どもたちにもっと知ってほしいですね。(女性・40～50代・市内)
- ・日田に新たなスポットができて友人や観光の方へ紹介しやすいです。(女性・高校～30代・市内)
- ・雨の日に子どもを連れていく所が増えてうれしいです。(男性・高校～30代・市内)
- ・どのコーナーも工夫がされてとても素晴らしかったです。多くの人に見に来てほしいです。(女性・60代以上・市内)
- ・とても興味深いものばかりで、日田の大地を利用してこのような展示をしてくださって嬉しいです。(女性・高校～30代・市内)
- ・松原ダムや下釜ダムがなかった時代の三隈川からその支流で魚から各々の生物に接していただけに大変興味深い。少年時代の限られた範囲の行動だったが、機会があったら見直してみたい。(男性・60代以上・市内)
- ・時間がなくゆっくりと見られませんでした。また時間をつくって来たいと思います。(女性・60代以上・市外)
- ・成人式以来の5年ぶりに日田に帰ってきました。幼少の頃より水辺で遊ぶのが本当に大好きで、たくさんの思い出がよみがえり、とても充実した時間を過ごすことができました。(男性・高校～30代・市外)

## 【要望】

- ・魚のパンフレットがあればいいなと思いました。(女性・40～50代・市内)
- ・解説サービスがあるとよい。(男性・40～50代・市内)
- ・いつまでも市民が利用できるようリニューアルしてほしい。(女性・高校～30代・市内)
- ・星空コーナーの説明をふやしてほしい。(女性・中学生以下・市内)
- ・ビデオの時間が長いので少し短くしてほしい。(女性・中学生以下・市内)
- ・お金をとつてもよいと思う。(女性・高校～30代・市内)
- ・目の不自由な人のために点字をつけてあげるとよい。(女性・高校～30代・市内)
- ・水辺の生き物ゾーンの生き物を増やしてほしい。(女性・男性・中学生以下多数)
- ・ときどき、内容の入れ替えをしてください。(女性・60代以上・市内)
- ・ワニが早くみたい。(男性・高校～30代・市内)
- ・魚の説明があるとよい。(女性・高校～30代・市内)
- ・昆虫標本がいろいろと見たい。(女性・中学生以下・市内)
- ・もう少しコーナーを増やしてほしい。(男性・中学生以下・市内)
- ・水害の大変さが五感でわかるようなコーナーを増やしてほしい。(男性・高校～30代・市内)
- ・企画展を多く計画して、地域の人々がたくさん立ち寄りやすい場にしてほしい。(女性・40～50代・市内)
- ・小さい子どもが読めるような振りがなを増やしてほしい。(女性・中学生以下・市内)
- ・もっと展示物を増やしてほしい。(女性・60代以上・市内)
- ・埋蔵文化財などの展示を増やしてほしい。(男性・40～50代・市内)
- ・サイコロのコマのキャラクターを増やしてください。(男性・中学生以下・市内)
- ・宇宙のゲームを増やしてほしい。(男性・中学生以下・市内)
- ・楽器と花があるとよい。(女性・中学生以下・市内)
- ・昆虫標本を壁に飾ってほしい。(女性・40～50代・市内)
- ・お茶または冷水があるとよい。(男性・60代以上・市内)
- ・川の源流が知りたいのでどこにいけばわかるようなものを。(男性・60代以上・市外)
- ・駅から博物館が遠い。無料送迎してほしい。(男性・60代以上・市外)
- ・生き物とふれ合いがしたい。(女性・中学生以下・市内)

—多くの感想や要望ありがとうございました。—



## IV 組織・運営体制

### 1. 博物館職員

平成 29 年度の博物館は、館長が社会教育課長兼務となり、新たに自然史専門学芸員として橋本知佳さんが配属となり学芸係が設置されました。平成 28 年度及び平成 29 年度の博物館職員体制については以下のとおりです。

#### 《平成 28 年度博物館職員》

職名	氏名	備考
館長	大島 誠一	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
博物館主事	行時 志郎	平成 19 年 4 月 1 日～
嘱託	中野 寛	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
臨時職員	大前 ふみえ	平成 25 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
臨時職員	興津 久豊	平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
臨時職員	斉藤 順子	平成 28 年 8 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日

#### 《平成 29 年度博物館職員》

職名	氏名	備考
館長(社会教育課長)	池田 寿生	平成 29 年 4 月 1 日～
主幹(総括)	行時 志郎	平成 19 年 4 月 1 日～
主査	橋本 知佳	平成 29 年 4 月 1 日～
主任	田吹 隆一	平成 29 年 4 月 1 日～
臨時職員	櫻木 健二	平成 29 年 4 月 1 日～
臨時職員	園田 麻郁	平成 29 年 4 月 1 日～

### 2. 博物館協議会

平成 29 年度は博物館協議会委員の任期が切れるため、平成 29 年 4 月 29 日に新たな博物館協議会委員の委嘱状を交付し、2 名の方が協議会を勇退し、新たに 2 名の方が博物館協議会委員に任命されました。退任された方の中には、28 期 56 年にわたって博物館協議会委員を務められ、博物館運営を支えてくださいました前博物館協議会委員長佐藤仁蔵先生も含まれています。佐藤先生におかれましては、これまでの功績に心より感謝申し上げますとともに長期にわたるご指導にお礼申し上げます。

また、平成 29 年度の博物館協議会委員には、佐藤先生に代わって植物に詳しい合谷勝彦先生、さらに日田市連合育友会代表の渡辺郁夫さんに代わり、博物館常設展示室の設置のために日田市の地質調査をしてくださいました久留米大学の木戸道男先生、小中学校理科主任代表の浦塚雄介先生にかわり、郡山治久先生が委員になりました。

平成 28 年度及び平成 29 年度の博物館協議会委員は以下のとおりです。

《平成 28 年度博物館協議会委員》任期：平成 27 年 4 月 1 日～29 年 3 月 31 日

	役 職	氏 名	専門領域	備 考
1	委員長	佐藤 仁蔵	植物生態	郷土日田自然調査会
2	副委員長	古田京太郎	植物生態	市議会議員
3	委員	奥森 修二	鳥類	日本野鳥の会日田支部
4	委員	園田 匠	環境	ひた水環境ネットワークセンター
5	委員	五島 英司	昆虫	昭和学園高校
6	委員	梶原 浩	植物	日田自然愛好会
7	委員	石原 康弘	地質	桂林小学校
8	委員	渡邊 良枝	—	女性有識者
9	委員	浦塚 雄介	—	小中学校理科主任代表
10	委員	渡辺 郁夫	—	日田市連合育友会代表

《平成 29 年度博物館協議会委員》任期：平成 29 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日

	役 職	氏 名	専門領域	備 考
1	委員長	古田京太郎	植物生態	郷土日田の自然調査会(市議会議員)
2	副委員長	奥森 修二	鳥類	日本野鳥の会日田支部
3	委員	園田 匠	環境	ひた水環境ネットワークセンター
4	委員	五島 英司	昆虫	昭和学園高校
5	委員	梶原 浩	植物	ひた少年少女発明クラブ
6	委員	石原 康弘	地質	光岡小学校
7	委員	渡邊 良枝	—	女性有識者
8	委員	木戸 道男	地質	久留米大学
9	委員	合谷 勝彦	植物	日田自然愛好会
10	委員	郡山 治久	—	小中学校理科主任代表

### 3. 博物館協議会の開催

平成 28 年度の博物館協議会は、以下の通り開催いたしました。

	開催日	人数	議事内容
第 1 回博物館協議会	平成 28 年 4 月 30 日	7 名	新博物館展示内容協議
第 2 回博物館協議会	平成 28 年 7 月 5 日	5 名	新博物館内覧
第 3 回博物館協議会	平成 28 年 9 月 19 日	9 名	小中学生自然研究作品展審査
第 4 回博物館協議会	平成 29 年 2 月 25 日	6 名	平成 29 年度事業報告

## V 平成 28 年度 事業概要

### 1. 博物館日誌

- 4月 4日 乃村工藝社展示協議
- 4月 13日 乃村工藝社展示協議
- 4月 14日 県資料返却・熊本地震発生
- 4月 18日 さよなら博物館展（～30日）
- 4月 27日 乃村工藝社展示協議
- 4月 30日 第1回博物館協議会
- 5月 15日 剥製移転作業
- 5月 16日 久留米大学 木戸先生協議
- 5月 18日 乃村工藝社展示協議
- 5月 19日 いのちのたび博物館展示物協議
- 5月 24～25日 大山振興局分資料移転作業
- 5月 30日 埋没樹木移転作業
- 6月 16日 下駄輪積み積上げ作業
- 6月 17日 引越し梱包作業
- 6月 18日 事務所移転
- 6月 25日 久留米大学 木戸先生協議
- 6月 28日 乃村工藝社手直し工事
- 6月 29日 淡水魚同好会・合谷先生企画展協議
- 7月 5日 博物館協議会内覧会
- 7月 7日 乃村工藝社 写真撮影
- 7月 8日 乃村工藝社 写真撮影
- 7月 15日 おきあげ人形研究会内覧
- 7月 16日 淡水魚同好会設立協議
- 7月 25日 KCV 展示室撮影
- 7月 27～28日 展示修正工事
- 7月 29日 マスコミ内覧
- 8月 1日 校長会内覧
- 8月 3日 小中学校理科主任内覧
- 8月 5日 複合文化施設開館記念式典**
- 8月 8日 科学実験教室
- 8月 10日 植物教室・星空観察会
- 8月 11日 昆虫教室
- 8月 13日 日田の地質と断層活動講演会(久留米大学木戸先生)
- 8月 19日 県知事視察
- 8月 20日 植物・昆虫同定会
- 8月 25日 女性団体連絡協議会見学・白亜紀資料館館長長谷先生来館

8月27日 淡水魚同好会視察  
8月29日 城一長寿会見学  
8月30日 三隈中3年生見学  
8月31日 小野高齢者学級・山びこ学級見学  
9月1日 北部中職場体験4名  
9月2日 桂林小4年生見学  
9月7日 三芳幼稚園見学  
9月8日 前津江中学校見学  
9月9日 津江中・東部中・桂林小学校見学  
9月10日 月隈こども園・桂林リハビリセンター見学  
9月13日 前津江公民館見学  
9月14日 小中学校作品展理科主任審査(～16日まで)  
9月15日 NHK文化センター見学  
9月16日 桂林小1年生見学  
9月17日 第3回博物館協議会(作品展審査)  
9月18日 小中学生自然研究作品展開始(～10月2日)  
9月23日 桂林小5年生見学  
9月24日 ルーテルこども園見学  
9月27日 前津江中3年生見学  
9月30日 東有田公民館(東有田成人セミナー)見学  
10月4日 朝日小学校見学  
10月5日 小中学生作品展搬出(～12日)  
10月6日 旧博物館解体工事開始  
10月7日 日田支援学校・高瀬婦人会・三芳小3年生見学  
10月9日 大分地質学会見学  
10月12日 大山層調査打ち合わせ  
10月14日 いつま小2年生・みくま幼稚園見学  
10月18日 光岡小2年生見学  
10月22日 特別展「廣瀬久兵衛と小ヶ瀬井路展」開始  
10月22日 若宮公民館見学  
10月26日 日田高1年生見学  
10月27日 東溪小4年生・日田高1年生見学  
10月28日 小野小1～3年生・日田高1年生見学  
10月29日 三芳公民館・三花公民館・桂林公民館見学  
11月4日 大山小3年生見学  
11月8日 咸宜小4年生見学  
11月9日 咸宜小5年生見学  
11月10日 石井小4年生見学  
11月12日 おきあげ人形特別展開始(～1月29日)

- 11月17日 石井小3年生見学
- 11月18日 三和小2年生・日田高1年生見学
- 11月22日 大山層調査開始
- 11月23日 秋の探鳥会
- 11月26日 特別展講演会(別府青翔高校大野先生)
- 11月27日 大山層本調査
- 11月28日 旧博物館解体終了
- 11月29日 大山層調査記者発表(現地)
- 12月3日 大山層現地説明会(～4日)
- 12月6日 大山層足跡化石切り取り作業(～10日)
- 12月9日 前津江小4年生見学
- 12月10日 城町1丁目長寿会见学
- 12月14日 石井小2年生見学
- 12月16日 朝日小4年生見学
- 12月20日 五和公民館見学
- 1月5日 企画展協議(水環境・園田氏)
- 1月15日 特別展「廣瀬久兵衛と小ヶ瀬井路展」終了
- 1月18日 三隈中2年職場体験3名(～19日)・月隈こども園見学
- 1月20日 久留米大学資料返却
- 1月25日 豊後大野市視察見学
- 1月26日 三和小3年生見学
- 2月3日 若宮小2年生見学
- 2月4日 公民館ステップアップ研修
- 2月7日 中央ロータリー見学
- 2月15日 日田ロータリー見学
- 2月16日 三花公民館見学
- 2月18日 企画展「水郷日田の源流を巡る」開始、大山っ子チャレンジ教室見学
- 2月19日 冬のバードウォッチング(亀山公園)
- 2月21日 大鶴公民館・若宮公民館見学
- 2月22日 高瀬公民館見学
- 2月24日 いつま小3年生・月隈こども園見学
- 2月25日 第4回博物館協議会
- 3月2日 三花公民館見学
- 3月14日 すぎっここども園見学
- 3月25日 上津江公民館見学

## 2.展示事業

### (1)特別展

『廣瀬久兵衛と小ヶ瀬井路』 10月22日(土)～1月15日(日)

場所 複合文化施設 1階多目的ホール 期間中の入館者数 3,351人

博物館の整備に伴い、今年度より特別展を開催することになりました。

特別展では、江戸時代の町人で小ヶ瀬井路や日田川通船工事などを行った郷土の偉人廣瀬久兵衛の人生とその人柄に焦点をあて、展示を通じて多くの市民にその業績を知ってもらおうと開催いたしました。

展示に当たりましては、(公財)廣瀬資料館の全面協力を得たほか、長崎県立対馬歴史民俗資料館や東映太秦映画村、久留米市教育委員会、鳥栖市教育委員会、日田漁業協同組合など各関係機関の協力もいただき、見ごたえのある展示になりました。



中城河岸の様子を再現した舟と子どもたち



特別展を見に来た子どもたちに説明する廣瀬資料館の園田学芸員

日田市内の小学校では、毎年4年生になると、小ヶ瀬井路をテーマとした授業を行っています。折しも特別展がこの授業時期と重なったこともあり、授業の一環として多くの小学校が特別展に来てくれました。

また、桂林小学校では、4年生が自分たちで廣瀬久兵衛や小ヶ瀬井路について研究したことをまとめ、さらに特別展のために廣瀬久兵衛グッズを手作りしてくださいました。4年生のみなさん、先生方大変ご苦労様でした。



### 特別展講演会

特別展に合わせて、県内で最も廣瀬久兵衛について詳しい大野先生をお招きして、11月26日に講演会を開催しました。

演題 「廣瀬久兵衛—その人生とひととなり—」

講師 別府青翔高校 大野雅之先生

日時 平成28年11月26日

場所 アオーゼ2階会議室

参加者 37人



## (2)企画展

『日田の季節を彩る花々』 8月5日(土)～10月30日(日)

場所 複合文化施設3階博物館企画展示室

期間中の入館者数 8,017人

博物館の整備に伴い、今年度より企画展を年2回開催することになりました。

1回目の企画展では、郷土日田の自然調査会フロラ部会の合谷勝彦先生にご協力いただき、「日田の季節を彩る花々」を開催いたしました。企画展示室一面に春から秋にかけて市内で見られる花々の写真が展示され、とても美しいと評判となりました。

市民の方々の評価も高く、今回はじめて販売することにした図録もあつという間に100部を突破しました。

一枚一枚の写真に合谷先生の花に対する愛情が伝わってくるもので、まとめとして紹介されておりましたように、地球温暖化や開発行為など様々な事情でこうした花々が近年見られなくなってきている状況は、とても寂しく残念に思いました。多くの人が小さな花の一つ一つを見て、心を和ますような時代が戻ってくることを願ってやみません。



企画展の様子



企画展を見学する桂林小学校児童

### 企画展講演会

演題 「遺したい日田の自然」

講師 合谷勝彦氏

日時 平成28年8月7日

場所 アオーゼ2階会議室

参加者 40人

この企画展に伴って、企画展の内容をより市民に分かりやすく伝えるために講演会を開催いたしました。

講演では、合谷先生が40年がかりで自然調査のために花の撮影を行ってきたことや花の名前のいわれ、特徴などユーモアを含めて楽しくお話くださり、あつという間の1時間でした。



## 『水郷日田の源流を巡る』 2月18日(土)～5月7日(日)

場所 複合文化施設 3階博物館企画展示室

期間中の入館者数 2,467人

2回目の企画展では、常設展示室で展示しきれなかった川のふるさとを写真で紹介しようというもので「水郷日田の源流を巡る」というテーマで開催いたしました。

日田は「水郷日田」「山紫水明の町」として水と自然が豊かな町のイメージが定着しています。では、その川の水はどこから流れているのか、実はあまり知られていません。そこで、市内を水源とする川とその源流の様子を実際に撮影し、写真パネルを使って展示しました。

調べていくと、市内には150以上の名前をついた河川があり、標高の高い原生林の森から流れ出る川もあれば、伏流水として湧き出てくる水が源流となっている川もあり、個性豊かでした。

これらの川沿いには人々の暮らしがあり、様々な川の文化が残っていました。そして、最終的に流れ込む川が三隈川です。

この展示を通じて、日田の人々にとってあたり前の存在に見える川の、新たな発見につながってもらえたらと思います。

3月11日には、ひた水環境ネットワークセンター理事長 園田匠氏による講演会を実施いたしました。

### 企画展講演会

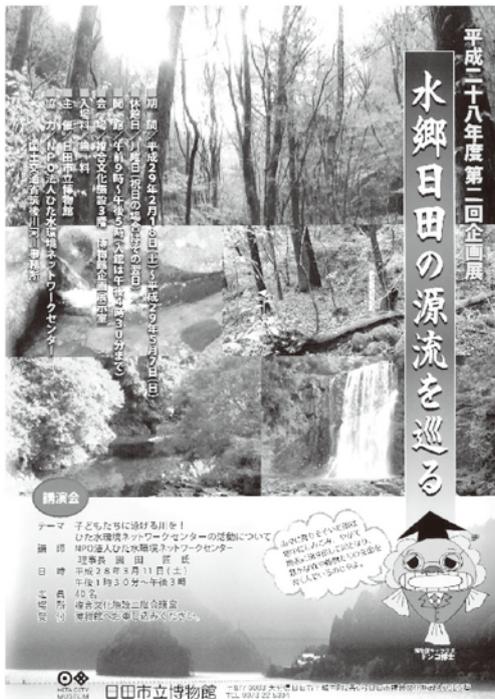
演 題 「子どもたちに泳げる川を～ひた水環境ネットワークセンターの取り組み～」

講 師 ひた水環境ネットワークセンター理事長 園田 匠氏

日 時 平成29年3月11日(土)

場 所 アオーゼ2階会議室

参加者 19名



「水郷日田の源流を巡る」ポスター



講演会の様子

### (3)特別企画展

『おきあげ人形特別展』 11月12日(土)～1月30日(日)

場所 複合文化施設3階博物館企画展示室 期間中の入館者数 2,815人

新たな博物館では、「おきあげ人形研究会」がボランティアで協力いただき、常設展示室を整備することができました。こうした市民団体の協力・援助は、博物館にとっても大変有難いことであり、展示や博物館活動の幅も広がっていきます。

また、特別展でも廣瀬淡窓や廣瀬久兵衛の若い頃の姿を、おきあげ人形を使って展示を行いました。この際にもご協力いただき、これまでにない印象深い展示を行うことができました。

また、「おきあげ人形研究会」においても、より多くの市民に日田の伝統文化である「おきあげ人形」を知ってほしいという思いがあり、そこで日田のおきあげ人形のルーツや道具、技術などを紹介する『おきあげ人形特別展』を開催いたしました。

期間中の11月18日と12月9日には、おきあげ人形づくり体験会も行い、盛況のうちに終えることができました。



おきあげ人形特別展の様子



おきあげ人形体験会の様子

### (4) 臨時企画展『さよなら博物館展』

期間 平成28年4月18日～30日(旧博物館)

期間中の来館者 50人

旧博物館には、56年間に延30万人を超える方々が見学に訪れ、子どもの頃に訪れたことのある市民にとっては懐かしい思い出の場所でもありました。そこで、旧博物館での展示の最後を飾る博物館の歴史を振り返る「さよなら博物館」展と題した展示会を開催いたしました。おりしも、熊本地震が発生したために来館者は少なかったのですが、来館された方は博物館での思い出を懐かしんでいました。



**(5) 第55回小・中学生自然研究作品展 9月18日(土)～10月2日(日)**

出展数 199点 期間中の入館者数 1,515人(大人 818人 子ども 697人)

この作品展は、昭和36年度からはじまり、子どもたちが夏休みの自由研究として取り組んだ作品のうち、「自然・科学」をテーマとしたものを対象に各学校から優秀作品を選び一堂に展示する催しで、55回目を迎えました。今年は初めて新博物館で展示を行い、市内の小中学校18校から力作199点が寄せられ、この中から各学校理科主任や博物館協議会委員の投票・審査を経て、成績のよかった57作品に教育委員会賞を授与いたしました。

また、ご後援ご協力をいただいた報道関係機関や関係団体から特別賞をいただきました。

学校関係者並びに多くの関係機関及び関係団体の皆さまに、心より感謝申し上げます。

**教育委員会賞**

—小学生標本作品の部—

**【昆虫標本】(2名)**

光岡小2年武内灯希 有田小6年高橋秀介

**【植物標本】(5名)**

三芳小1年藤井和志 三芳小3年藤井智隼 咸宜小4年畑中菜那 三芳小6年藤井柊真  
朝日小6年辻 佑空

—中学生標本作品の部—

**【植物標本】(1名)**

三隈中1年矢幡咲花

—小学生観察研究作品の部—

**【観察研究記録】(46名)**

桂林小1年中島咲季 高瀬小1年野村茉杜 三芳小1年重藤浩太 大山小1年長谷山智  
咸宜小1年梶原 和 小野小2年松原大和 大明小2年太郎良有可 日隈小2年藤野由奈  
日隈小2年西邑 仁 三芳小2年高倉伊織 三芳小2年中野由絃 桂林小2年岩崎南奈  
桂林小3年坂本悠太 光岡小3年遠藤慧之 桂林小3年松本和佳 桂林小4年三苫 嵐  
桂林小4年宮崎智貴 日隈小3年三隅春奈 日隈小4年朝野瑛斗 日隈小4年紙屋 凜  
日隈小4年大前里於 三芳小4年高倉結衣 三和小4年中島日和 三和小4年華藤善優  
光岡小4年新川美海 有田小4年村上 倫 有田小4年井上千弘路 桂林小5年甲斐貴子  
桂林小5年長木大耀 桂林小5年清末叶太 桂林小5年豊福弘士郎 光岡小5年後藤龍一  
有田小5年森部華子 有田小5年河野萌称 桂林小5年岩崎結衣 石井小6年津山 桜  
桂林小6年三笥椎那 若宮小6年冷川舜雛 東溪小6年高倉佳蓮 日隈小6年西邑咲良  
光岡小6年横尾一紗 光岡小6年井出駿太 日隈小6年大前隆亮 朝日小6年中山大志  
三和小6年小野公太郎 三和小6年華藤善海

—中学生観察研究作品の部—

**【観察研究記録】(3名)**

北部中2年中野和奏 三隈中1年石谷あおい 三隈中1年梶原綾乃

## 特別賞

- 【毎日新聞社賞】日隈小4年大前里於「タカハヤとわき水」
- 【西日本新聞社賞】日隈小2年西邑 仁「ヨシノボリのかんさつ」
- 【朝日新聞社賞】三隈中1年梶原綾乃「DNAをとり出してみよう」
- 【大分合同新聞社賞】桂林小5年岩崎結衣「いたみにくいおにぎりの研究」
- 【読売新聞西部本社賞】津江小6年千原優星「おばあちゃんの畑でできる野菜」
- 【地元新聞社賞】大山小6年向井 綾「ペットボトル浄水器の作り方と実験」
- 【KCV コミュニケーションズ賞】有田小5年森部華子「金魚は地震を予知できるか」  
北部中2年堀 智尋「魚類の解剖」
- 【郷土日田の自然調査会賞】三和小6年華藤善海「チリメンモンスターの標本」
- 【日田自然愛好会賞】朝日小6年辻 佑空「植物の標本」
- 【ひた水環境ネットワークセンター賞】桂林小4年宮崎智貴「河川の水質調査」
- 【日田天文同好会賞】日隈小3年三隅春奈「星空かんさつ」
- 【日田市連合育友会賞】咸宜小6年原 愛美「食品添加物について」
- 【日田漁業協同組合長賞】朝日小6年中山大志「日田の川に住む魚達について～アユの放流についてわかったこと」
- 【ひた少年少女発明クラブ協議会賞】三和小6年小野公太郎「紙飛行機の垂直尾翼の大きさ、主翼の前後位置ととぶ距離のちがい」
- 【日本野鳥の会日田支部長賞】有田小4年井上千弘路「なるほど！鳥のくちばしのひみつ」
- 【博物館協議会委員長賞】桂林小2年岩崎南奈「カラフル色水を作ろう」
- 【博物館長賞】有田小6年高橋秀介「昆虫標本」

出展内訳表（学校・学年別）

—小学校の部—

	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
1	三和	1			3	2	3	9
2	日隈		3	5	5	2	5	20
3	三芳	2	5	1	1		1	10
4	大山	2	2		1	1	3	9
5	石井		1			1	5	7
6	東溪						1	1
7	大明		2	1	2	3	5	13
8	桂林	1	1	2	4	5	3	16
9	咸宜	4	2	1	3	3	3	16
10	光岡		3	2	3	6	6	20
11	津江						2	2
12	高瀬	1	1		7			9
13	小野		4		4	2	1	11
14	若宮				1	1	2	4
15	有田	1	2	1	5	4	7	20
16	朝日						3	3
計 16 校		12	26	13	39	30	50	170

—中学校の部—

	学校名	1年	2年	3年	合計
1	三隈	10			10
2	北部		19		19
計 2 校		10	19	0	29

### 3. 普及啓発活動

#### (1) 夏休み小・中学生対象自然教室

##### ① 植物教室

日 時 平成 28 年 8 月 10 日 (水)  
場 所 釈迦岳周辺  
参加人数 19 名 (大人 3 名 子ども 16 名)  
内 容 前津江町釈迦岳周辺で植物観察及び採集を行い、午後から植物標本のつくり方について、郷土日田の自然調査会の指導で行いました。



##### ② 昆虫教室

日 時 平成 28 年 8 月 11 日 (木)  
場 所 萩尾公園～体験学習室  
参加人数 26 名 (大人 6 名 子ども 20 名)  
内 容 午前中に萩尾公園で昆虫採集を行い、午後からは博物館で昆虫標本のつくり方について昭和学園高校の五島英司先生の指導で行いました。



##### ③ 植物昆虫同定会

日 時 平成 28 年 8 月 20 日 (日)  
場 所 複合文化施設体験学習室  
参加人数 25 名 (大人 8 名 子ども 17 名)  
内 容 夏休みに子どもたちが採集した植物や昆虫の学名や和名を教えるイベントで郷土日田の自然調査会の指導で行いました。



##### ④ 科学実験教室

(1 回目) コイルモーターづくり

日 時 平成 28 年 8 月 8 日 (月) 9 時 30 分～12 時  
参加人数 26 名 (大人 7 名 子ども 19 名)

(2 回目) 葉脈標本づくり

日 時 平成 28 年 8 月 8 日 (月) 13 時 30 分～16 時  
参加人数 17 名 (大人 3 名 子ども 14 名)

場 所 体験学習室

内 容 ひた少年少女発明クラブの指導のもと、午前中はコイルモーターづくり、午後は葉脈標本づくりを行いました。



## (2) 一般市民対象自然教室

### ① 星空教室(夏の星空観察会)

日 時 平成 28 年 8 月 10 日(水)

場 所 桂林小学校

参加人数 58 名(大人 30 名 子ども 28 名)

内 容 日田天文同好会の指導で天体望遠鏡を使って月や惑星などを観察しました。



### ② 探鳥会

日本野鳥の会大分日田地区支部の指導のもと、平成 28 年度は 2 回の探鳥会を開催しました。

(秋の探鳥会)

日 時 平成 28 年 11 月 23 日(水)

場 所 田来原公園と大山ダム

参加人数 24 名(大人 19 名 子ども 5 名)

(冬の探鳥会)

日 時 平成 29 年 2 月 19 日(日)

場 所 亀山公園周辺

参加人数 16 名(大人 16 名)



### ③ 自然観察会

日田自然愛好会の協力のもと、1 回の自然観察会を開催いたしました。

日 時 平成 28 年 10 月 8 日(土)

場 所 九重町飯田高原長者原

参加人数 38 名(大人 38 名)



### ④ 地質講演会の開催

日 時 平成 28 年 8 月 13 日(土)

参加人数 24 名(大人 22 名 子ども 2 名)

内 容 久留米大学木戸道男先生が 40 年かけて調査した成果や熊本地震を引き起こした活断層の動きなどについて講演を行いました。

## (3) 職場体験受け入れ

博物館では、毎年中学校からの要請により、職場体験を実施しています。平成 28 年度は、9 月 1 日に北部中学校より 4 名が、1 月 18 日・19 日には三隈中学校より 2 年生 3 名が職場体験に訪れ、博物館展示室の清掃作業やリーフレットづくりなどのお手伝いを行っていただきました。

#### (4) 博物館見学(団体)

アオーゼが開館して以来、多くの学校や地区公民館などが見学を訪れ、博物館を活用していただきました。

	日時	人数		日時	人数
女性団体連絡協議会	8月25日	11名	日田高1年生	10月28日	40名
城一長寿会	8月29日	12名	三芳公民館	10月29日	28名
三隈中3年生	8月30日	168名	三花公民館	10月29日	19名
小野高齢者山びこ学級	8月31日	24名	桂林公民館	10月29日	16名
桂林小4年生	9月2日	64名	大山小3年生	11月4日	29名
三芳幼稚園	9月7日	75名	咸宜小4年生	11月8日	96名
前津江中学校	9月8日	26名	咸宜小5年生	11月9日	93名
東部中学校	9月9日	91名	石井小4年生	11月10日	17名
津江中学校	9月9日	12名	石井小3年生	11月17日	29名
桂林小学校	9月9日	46名	三和小2年生	11月18日	51名
月隈こども園	9月10日	23名	日田高1年生	11月18日	19名
桂林リハビリセンター	9月10日	12名	前津江小4年生	12月9日	11名
前津江公民館	9月13日	10名	城町1丁目長寿会	12月10日	10名
NHK文化センター	9月15日	21名	石井小2年生	12月14日	23名
桂林小1年生	9月16日	51名	朝日小4年生	12月16日	11名
桂林小5年生	9月23日	62名	五和公民館	12月20日	14名
ルーテルこども園	9月24日	14名	月隈こども園	1月18日	18名
前津江中3年生	9月27日	13名	豊後大野市	1月25日	6名
東有田公民館	9月30日	21名	三和小3年生	1月26日	55名
朝日小学校	10月4日	23名	若宮小2年生	2月3日	27名
日田支援学校	10月7日	15名	公民館運営事業団	2月4日	15名
三芳小3年生	10月7日	75名	中央ロータリー	2月7日	23名
高瀬婦人会	10月7日	12名	日田ロータリー	2月15日	42名
大分地質学会	10月9日	11名	三花公民館	2月16日	9名
いつま小2年生	10月14日	9名	大山公民館	2月18日	22名
みくま幼稚園	10月14日	29名	大鶴公民館	2月21日	57名
光岡小2年生	10月18日	100名	若宮公民館	2月21日	16名
桂林小2年生	10月19日	48名	高瀬公民館	2月22日	16名
若宮公民館	10月22日	21名	いつま小3年生	2月24日	15名
日田高1年生	10月26日	39名	小野小6年生	2月28日	10名
東溪小4年生	10月27日	94名	三花公民館	3月2日	15名
日田高1年生	10月27日	41名	すぎっここども園	3月14日	14名
小野小1～3年生	10月28日	21名	上津江公民館	3月25日	28名

#### 4.調査研究活動 ー大山層足跡化石調査ー

発掘調査期間 平成 28 年 11 月 22 日～12 月 10 日

##### (1)調査に至る経緯

大山層は日田市大山町一帯で見られる地層で、この地層の中からは植物プランクトンの珪藻化石や植物化石(ブナやカエデの仲間など)、淡水魚化石(フナなど)が発見されていました。(『大分県日田郡大山町の地質』小田実 昭和 52 年度国内留学研究報告書 1977)。

その後、熊本大学の調査により、この地層がかつて湖や沼のような場所に堆積してできた地層であり、フィッション・トラック年代法により更新世(77 万年頃)のものであることが明らかとなりました(『中・北部九州後期新生代の植生と古環境』-その 4 大山・杖立地域(下部更新統)- 岩内明子・長谷義隆 地質学雑誌第 95 巻第 1 号 1989)。

また、大分地質学会の北林栄一先生により、新たに淡水魚の咽頭歯化石(『大分県大山町の鮮新・更新統小五馬層産のコイ科魚類咽頭歯化石』中島経夫・松岡敬二・北林栄一 地球科学 55 巻 1 号 2001)や昆虫化石(『大分県大山町の大山層から産出した昆虫化石』林成多・八尋克郎・北林栄一 Bulletin of the Mizunami Fossil Museum no.31 2004)も発見されてきました。

##### (2)足跡化石発見の経過

このように大山層は市内でも数少ない化石の包含地として知られており、博物館では平成 26 年 7 月 19 日、かつて大山層を調査された天草市御所浦白亜紀資料館(元熊本大学教授)の長谷義隆先生と北林栄一先生を講師に招いて夏休みの子どもたちを対象とした地質探検教室を開催しました。

その際、偶然に大山町吾々路川河床内において、シカの足跡ではないかと考えられる足跡化石が発見されました。足跡化石はこれまで日田市内では発見例がないため、平成 26 年 11 月



偶蹄類の足跡

18 日に、国内で最も足跡化石に詳しい滋賀県足跡化石研究会の岡村喜明先生を招いて現地で同定をいただいたところ、偶蹄類(シカ類)の足跡に間違いがないことが判明いたしました。

##### (3)今回の調査に至る経過

足跡化石が発見された現場は、谷筋を流れる大山川の支流である吾々路川の河川内で、しかも水の浸食で脆く壊れやすい珪藻土であり、そのまま放置すれば河川の浸食で壊れかねない状況であったことから、今年度「大山層足跡化石調査事業」として予算を組み、大分県土木事務所、日田漁業協同組合より河川利用許可を受け、専門の先生方や地元西峰自治会・吾々路地区住民の方々のご協力のもと、足跡化石の広がりやそれ以外の足跡化石の同定、足跡化石の発見された現地周辺での古環境の復元、年代測定などを目的に発掘調査を行うことになりました。

##### (4)調査組織

調査団長 日田市教育長 三笥眞治郎

調査総括 日田市立博物館長 大島誠一

調査担当 日田市立博物館主事 行時志郎

調査指導者 足跡化石 滋賀県足跡化石研究会代表 岡村喜明

古環境復元 天草市御所浦白亜紀資料館長 長谷義隆

調査指導 大分地質学会員・宇佐市ミエゾウ足跡化石等発見者 北林栄一

## (5)調査の経過

- 平成 28 年 11 月 22 日 調査開始(足跡周辺の地層清掃)
- 平成 28 年 11 月 25 日 炭化木周辺の掘り下げ・炭化木の取り上げ
- 平成 28 年 11 月 27 日 足跡の検出作業
- 平成 28 年 11 月 28 日 大型ほ乳類三趾型(サイ類)の確認  
足跡周辺の大山層の形成状況の調査
- 平成 28 年 11 月 29 日 現地記者発表
- 平成 28 年 11 月 30 日～12 月 2 日 記録調査
- 平成 28 年 12 月 3 日～4 日(午前 10 時～午後 3 時)現地見学会
- 平成 28 年 12 月 6 日～9 日(足跡化石の切り取り)
- 平成 28 年 12 月 10 日(調査終了)



メタセコイア球果

## (5)調査の内容・結果

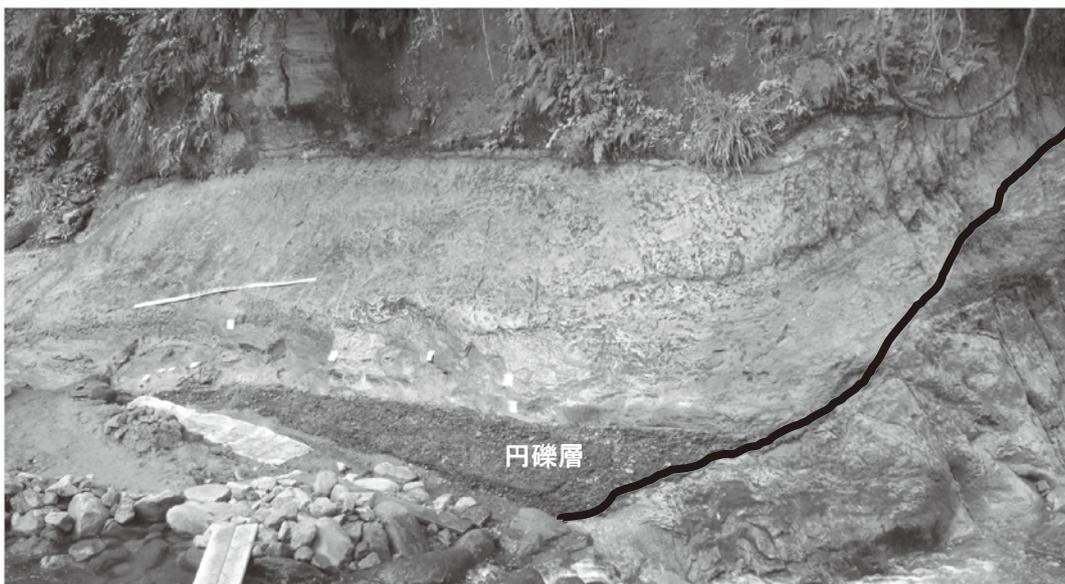
大山層の範囲は、吾々路川沿いから小五馬にかけての崖面などに露頭が見られます。大山町一帯に見られる地層であることから長谷義隆氏によって大山層と命名されました。

この大山層は、湖や沼などに火山灰などが堆積してできた地層であり、当時背後の津江山地の形成など周辺の火山活動も盛んな時代でした。このため、火砕流に伴う火山灰などを大量に含んだ地層ができました。

### ・現場周辺の地層が形成された過程について

現場周辺の地層の堆積状況を見ると、大山層を削って「U」字型の谷が形成されています。この谷の最も低いところには、3～5 cm程度の円礫が河床を埋め尽くすように分布しています。こうした円礫は上流から運ばれてきた石が小さく丸くなって川の中州のような場所に堆積しているような石です。

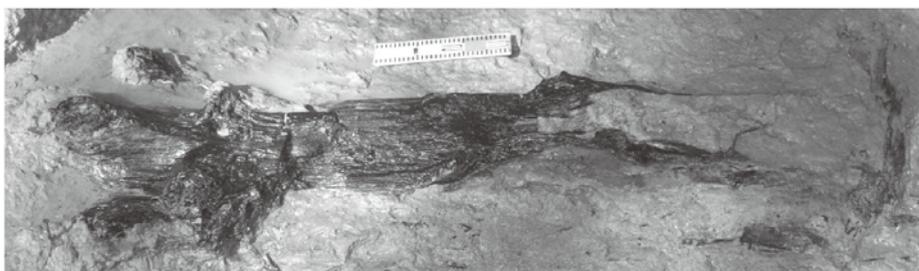
この円礫から当時この一帯は、広い平野部がありその中を川が流れていて、その川の中に堆積した小石が何らかの事情でこの谷の中へ流れ込み形成されたと考えられます。



大山層を削ってできた谷(太線)と谷の河床に堆積した円礫層

そしてこの谷は、ある時、地震などによって引き起こされた地殻変動により、平野部となっていたこの場所が崩れて谷が形成され、谷の底に川で形成された小石が大量に流れ込んで堆積したものと想像されます。

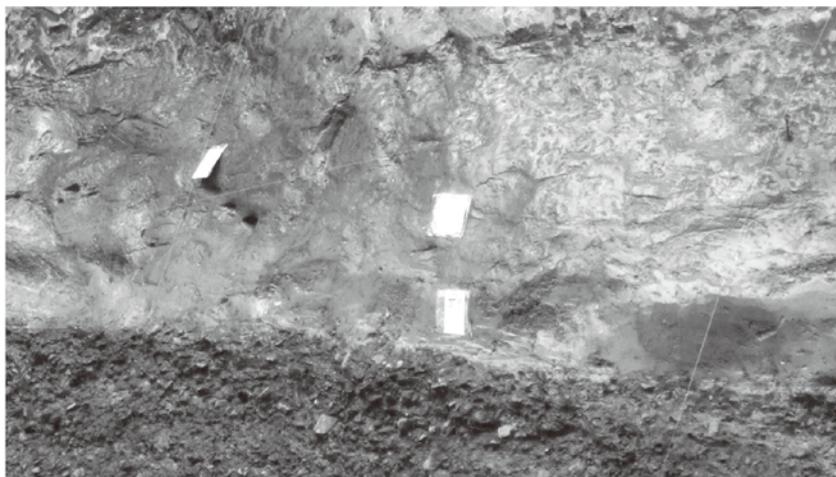
今回の調査で円礫層より上からは、たくさんの炭化木が出土しました。この炭化木が数十万年という時を経て今日まで残ったのは、常に現地が湿潤で水に浸かった状態であったことを示しています。実際に円礫層より上に堆積した地層をみると、泥などが堆積してできた地層がクロワッサンのように何層にも折り重なって堆積している様子が観察されます。



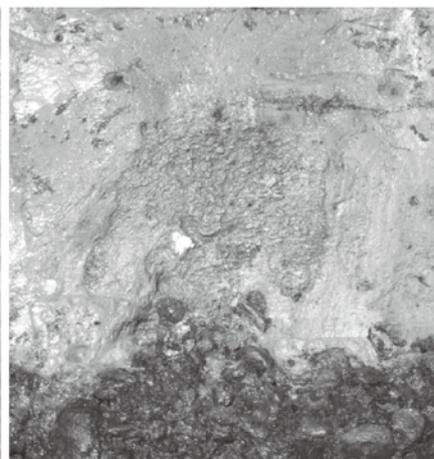
炭化木

#### ・今回発見されたものが足跡化石とする理由

水の中に堆積した地層は本来水平に堆積をしているのが普通ですが、今回発掘調査を行った地層を見ると、所々に大きく波打ったり、えぐられたような形をした所が見受けられます。自然の堆積を考えた場合には考えにくいことです。



調査地点の地層



サイと見られる足跡痕跡

(泥湿地を歩いたために、下の礫岩が乱れている。)

また、断面を見ると穴のような形をした中に砂利が混入しているところが見られます。このような穴が自然にできる場合、木や草の根がそこに生えて形成されることもありますが、この地層では炭化木や種子がそのまま残っていますので、そうであれば木の根などが地層内に残るはずですが、その痕跡は全く見られません。また、大きな石が抜けたことも考えられますが、現地では円礫層より上では大きな石はもちろん円礫もほとんど見られません。

こうしたことから、この地層に残された痕跡は、人が田植えなどを行った時のように、何者かが泥湿地を歩いてつけた足跡以外には考えにくいのです。

### ・「シカ」や「サイ」の足跡とする理由

足跡を見る場合には、それが動物の持つヒヅメなどの特徴的な形がポイントになります。「シカ」の場合には2本「V」の字型に開いたヒヅメが特徴的です。現場では多くの「偶蹄類」の足跡が平面で確認された他、断面でも長靴状のシカの足跡が見つかりました。

一方「サイ」は「三趾型」と呼ばれ、三本指に特徴があります。この三本指を持つ動物は他に「ゾウ」があげられます。現地に残る足跡は三本指の動物の足跡を持つものが見られましたが「中指」が突出して大きいものが、平面や断面で4か所確認されました。この特徴を持つものは「サイ」であり、「ゾウ」ではないことがわかりました。

また、「サイ」は現生で5種類が世界にいますが、今回見つかった足跡は、その中で最も小型のスマトラサイの大きさに近いと考えられます。スマトラサイは体長2.4~3.2m、重さ約1トンの「サイ」の仲間です。



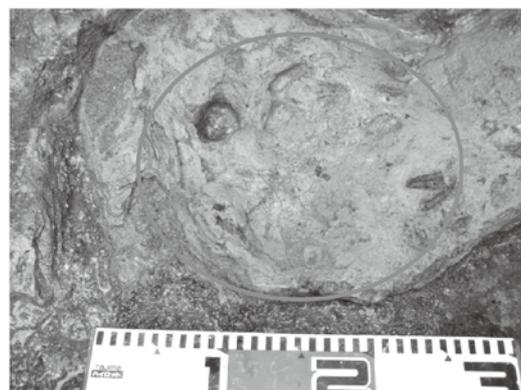
スマトラサイ(撮影:岡村喜明)



サイのヒヅメ(撮影:岡村)



ゾウの足と足型(撮影:岡村)



今回見つかった足跡(サイ)

### ・この時代の動物たち

古琵琶湖層からは、鮮新世から更新世にかけての動物の骨や足跡が確認されています。この地層では「サイ類」のほか「ゾウ類」「ワニ類」「偶蹄類」が発見されています。これから現地の年代測定などを行っていきませんが、古琵琶湖層と同時期であれば、周辺には今回発見されなかった動物たちも生息していたと考えられます。

平成 29 年度の予定

- ・足跡化石ができた頃の年代測定
- ・調査報告書の作成
- ・平成 30 年 3 月 10 日～平成 30 年 5 月 6 日 特別展「大山層足跡化石と全国の足跡化石」の開催

## 5.新博物館への移転と旧博物館の解体

博物館の移転に伴い、収蔵物や備品などを 3 回に分けて、新館への引っ越し作業を行いました。最初に大山振興局に保管していた剥製や岩石・鉱物標本、博物館 2 階の収蔵庫にあった昆虫標本などを 5 月 24・25 日に運搬、埋蔵文化財センターに保管していた小野川より出土した埋没樹木を 5 月 30 日に運搬、6 月 18 日に事務室内の備品及び淡水魚を運搬しました。剥製や昆虫標本は引っ越しに合わせて燻蒸処理を行い、埋没樹木の主なものは展示室に運び込み設置しました。この時、痛みのひどい古い液浸標本は産業廃棄物として処理しました。

また、淡水魚は事前に水辺の生き物ゾーン内に水槽を設置し、底砂利や小野川埋没樹木などでレイアウトを組んだ後に運び込み、水槽内に放流しました。また、1 階大水槽については、事前に擬岩に水草や珪砂、流木、小野川埋没樹木、大山層埋没樹木を設置した後に淡水魚を放流しました。



1 階大水槽

その後、空になった旧博物館は、老朽化し危険なために 10 月 6 日より解体工事に取りかかり、11 月 28 日に完了しました。更地になった旧博物館の敷地は市民文化会館パトリア日田の駐輪場として今後活用が図られる予定です。



博物館解体後の写真

**日田市立博物館 年報 第 50 号**

2017 年 7 月(平成 28 年度版)

編集・発行 日田市立博物館

〒877-0016 日田市上城内町 2-6

TEL 0973-22-5394

印 刷 尾花印刷有限会社